

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493800336	事業の開始年月日	平成28年4月1日
		指定年月日	平成28年4月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト勝田		
所在地	(224-0034) 横浜市都筑区勝田町655		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設運営計画として活動する。①
地域連携・参加。②介護支援・医療体制の充実化。③職員のスキルアップ（本社研修・施設内研修・個人研修（動画）外部研修）

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月16日	評価機関 評価決定日	令和5年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は東急東横線「綱島」駅からバスにて約20分、バス停より徒歩5分程の住宅と中小工場が混在し、事業所の裏には竹林の雑木林がある静かな立地環境にあります。

<優れている点>

企業理念は、安心して暮らせる地域社会を支え、地域に密着したサービスの提供を目指しています。この理念に沿って事業所は入居者が安心して笑顔で暮らせる環境づくりを目標とし、職員は日頃のケアの実践につなげています。運営推進会議は、町内会代表、民生委員、地域包括支援センターの職員、都筑区職員、入居者家族などを構成委員とし、2ヶ月に1回開催して、活動状況や事業所のサービス内容の開示に努めています。現在は、コロナ禍のため書面報告となっています。医療面では医師と看護師が連携を図り、24時間安心して医療の受診や健康相談ができる体制にあります。重度化した場合の対応にかかる指針を定め、入居者・家族の意向を確認しながら最後まで尊厳ある看取り介護を行う体制が確立し、終末期ケアの研修も実施しています。施設内研修は年間計画を立て、身体拘束の排除、虐待発生防止などの勉強会を実施し、職員の人材育成を図っています。

<工夫点>

コロナ禍のため、現在は事業所内の入居者の日常生活の様子を動画で送信し家族の安心に繋がっています。節分、ひな祭り、花見、七夕祭り、納涼祭、クリスマス会などの多彩な行事も便りと写真を送付しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム ソラスト勝田
ユニット名	だいち

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の指針を受けて事業所内の理念を掲げ、前年度の反省を踏まえて地域に根ざした認知度向上の活動をしていく。入居者の状況は重度化（車いす）し、定期的にプチ会議、月1回のユニット会議を行い、全職員で統一したサービスを提供する。	事業所は「入居者が安心して笑顔で暮らせる環境づくり」を目標とし、玄関に掲示しています。管理者は新入職員の研修時に説明し、職員は日頃の介護の中で理解を深め実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内自治会の一員として、運営推進会議に参加して頂いている町内会長、民生委員の方々から情報を頂き、入居者様と一緒に参加交流を展開している状況。（地域、施設の行事・夜間パトロール・防災訓練）（現在はコロナ状況の為、交流出来ない）	町内会に加入し、入居者は近くの神社へ初詣に出掛けています。地域縁日や、地域パトロールにも参加しています。音楽療法のボランティアが来訪し交流しています。現在はコロナ禍のため中止しています。	コロナ終息後、地域とのつながりを大切にするためにも保育園や幼稚園と連携を深め、歌を楽しむ交流を促進し、中学生・高校生を社会学習の一環とし受け入れるなどが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	会社の運営方針を受けて地域貢献の企画運営を変わらず行う予定でいる。（本来であれば、8月の納涼祭）（現在はコロナ状況の為）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、堅苦しくやって終わるのではなく、雑談も入れ、入居者様のお手伝い姿も見て頂く場としている。（現在もコロナ状況の為、書面での会議になっている）	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。会議では事業所の入居者状況や活動報告、行事などの報告を行い意見交換もしています。地域情報を得て、運営に活かしています。現在はコロナ禍のため書面報告をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活受給者が6割程で区など行政機関と密な関係を構築することは重要と考えて展開している。市区主催の講習などには、可能な限り参加している。	管理者は都筑区高齢・障害支援課へ運営面や業務上の問題点を相談しています。介護保険の更新手続きは家族に代わってケアマネジャーが立ち合っています。グループホーム連絡会や横浜市グループホーム協議会への研修などはコロナ禍のため中止しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員の理解度を把握した上で、「拘束するとはどんな事か？」を事例を基に入居者様の安全・快適なケアに努めている。身体拘束の社内研修も実施している。	身体拘束等適正化委員会を設置し、事例を交えて話し合いをしています。職員には「身体拘束の排除のための取り組みに関する研修」を実施し、研修時やミーティング時にも話し合い、正しい理解に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	[虐待は犯罪]という事を職員に発信している。拘束同様に介護サービス提供者として、言動への助言だけではなくOJTの一環でスキルアップに努めている。職員の心理的ストレスに対しては対話し、思いを聞き入れ、注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、職員は事例に基づき「虐待発生防止の取り組みに関する研修」を受講し、会議で話し合い、正しい理解に努めています。職員は日々の暮らしの中で入居者への声掛けに留意しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人の方が1名いるので、区担当者など行政の方からの情報提供並びに後見人との来訪時の会談・メールなどを通じて学ぶ機会を得られている。この分野は管理者だけではなく、エリアディレクター・施設職員・行政の三位一体で理解し、支援できる環境、体制作りを努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年は1名入居され、本社・施設の受け入れ態勢や設備が構築されているので、今後も変わらない健全なる方針・スタンスで運営展開していく。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者並びにご家族等からご意見、不満等の声には記録に残して速やかに職員に伝え、周知対応にて早期解決、改善に取り組んでいる。また運営推進会議を利用し情報提供を行い助言をもらっている。ご家族に対しては、来客時、電話での運営に反映を図っている。(コロナ禍の為、状況に応じて)	家族の来訪時には声掛けし、意見や要望を聞いて運営面に反映しています。現在はコロナ禍のために家族から面会したいという要望がありますが、家族の来訪は中止しています。接遇面や虐待に関して、運営法人独自のアンケート調査を随時実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	元々リーダーからという立場だったためか、職員から意見が言いやすい環境作り・雰囲気作りが出来ている。内容によっては本社へ働きかけ、提言としている。また、必要に応じて職員1人ひとりと対話の機会を設けている。	管理者はユニット会議や朝夕の申し送り時に職員から意見や要望を聞いて運営面に反映しています。職員から事業所のイベントの開催や給与面の待遇などの改善要望があります。地域担当ディレクターが巡回時に環境面の要望を聞いて運営面に反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社（地域担当ディレクター）が適宜来訪して、管理者との情報交換や現場職員との対話で現状把握を図っている。管理者はリーダーと職員の評価を行い、必要に応じて面接を実施し、職員の現状把握とモチベーションアップに努めている。	管理者は職員が働きやすい環境づくりに努めています。職員は年1回の健康診断を行い、心身の健康管理にも努め、夜勤者は希望により年2回の健康診断を実施しています。管理者は職員の資格取得に注力しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、本社研修（必須）・社内研修（必須）外部研修・講座はスキルアップの一環で積極的に参加をしている。（コロナ禍の為、状況に応じて）	職員は常勤・非常勤を問わず社内研修や希望により外部研修にも参加できるように配慮しています。職員は初任者研修や実務者研修を受講し、エルダー職員が仕事を通じて丁寧に指導するOJTによる人材育成に取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム協議会主催の研修情報などから、同業他社や他事業所での交流・助言等施設全体の底上げ・個人のスキル・レベル向上を狙った活動をしている。（コロナ禍の為、交流等は出来ていない状況）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人が入居される前には、ご家族も含めサマリー等でのアセスメントを実施している。入居者様が安心・安全で居心地の良い生活ができるように日々、環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	離れて暮らすご家族の不安心理は格別なものであると思っている。その思いを少しでもキャッチして、暮らしぶりや健康面の情報などを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談の段階では、入居を前提でお話するのではなく、ご家族に対して安心感を持って頂けるよう努めている。又、ご家族の方が何かを求めているのか等を見極めて、そのご家族にあったサービスを心掛けていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、生活の中で症状、状態を把握して自立及び支援の姿勢を心掛けている。その方がその方らしく生活していくために、職員間で協力しながら今後も継続して取り組んでいく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人及びご家族とは、電話や来訪時などに情報交換を図っている。このスタンスを保ちながら、更に工夫を重ねて信頼関係を深められるよう取り組んでいる。(コロナ禍の為、来訪は現在も中止している)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所や人との関係が途切れないように外出の機会を心掛けている。個別支援では、個々にあった支援を提供していきたい。(現在はコロナ禍の為、外出が出来ていない)	コロナ禍前は利用者と家族と一緒に馴染みの美容院やレストランへ行き外食をしたり、墓参りにも出掛けています。入居者の中には家族旅行や、正月には自宅へ帰る人もいます。知人や友人の来訪もありました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	性格の違う方達の共同生活のため、職員が一人一人の特徴をしっかりと捉え生活支援を行っている。時には入居者間のトラブルが発生してしまう事もあるが、早めに職員が対応することで、険悪な雰囲気や入居者が孤立等しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで築き上げてきたご家族の関係を出来るだけ終わらせる事なく、電話や来訪時、外出で交流を保ち・情報交換に努めてきた。今後もこの方法で支援提供に取り組んでいく。（現在もコロナの状況により）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の状態が軽度の方・重度な方がおり、自分の意思を伝えることが出来る方・出来ない方など様々である。職員の働きかけや日常会話の中からその方の思いを引き出すよう心掛けている。そして、キャッチしたものを職員間で共有し、その方に合った生活支援を提供している。	職員は、入居者との日々の様々な関わりを通して、その思いや要望を把握するように努めています。得られた情報は職員間で共有し、ケアプランに反映することで、個々の入居者に合った支援をすることに繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の歩んでこられた生活の足跡や背景などの情報はしっかりと職員はとらえて支援している。入浴や散歩などの日常生活でのコミュニケーションは新たな発見情報の源・宝庫であり支援には有効策の一つとして取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員は、入居者一人一人の症状・言動の変化などに対して、情報の共有に努めて支援している。職員間だけではなく、医療機関、関係分野全てと連携し入居者の安全・安心生活に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の日常生活や心身状態などを把握し、管理者や職員、ケアマネージャーを中心に、ご本人やご家族の意見・要望を取り入れて作成している。定期的にモニタリングをしチーム全体で支援提供している。	ケアマネージャーは、入居者、家族の要望や意向を汲んだうえで、医師、看護師、事業所の管理者・職員と話し合いながら介護計画を作成しています。介護計画の見直しは、3ヶ月に1回モニタリングを実施して、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者全員、毎日の生活の様子をタブレットにケース記録を残し、発語や症状、いつもと違う言動や様子などを特記項目として残し共有化を図っている。介護記録に残すだけでなく、必要に応じて医療・ご家族にも情報を提供し、入居者が安心できる生活環境作りに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	加齢と共に心身、状態などが変容してきている実態・現実をしっかりと捉えて、関係機関やご家族にも情報提供して柔軟な取り組みを実行に移す体制で努めている。（コロナ禍の為、ご家族には電話対応のみ）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	従来と同様に町内会長及び民生委員、地域包括支援センターや区役所担当者と交信・交流にて資源把握・確保を図っている。音楽療法などのボランティアに來訪して頂き、交流を図ることで入居者の癒し環境作り、豊かな暮らしが少しでも出来るための支援に努めている。（コロナ禍の為、交流は無し）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	Dr・Nsの定期検診をし、（週1回）入居者様の医療的健康管理をDr・Ns・ご家族との連携によって、施設として適切な医療環境を提供出来るような体制で取り組んでいる。	協力医療機関の医師・看護師が各ユニットごとに月に2回ほど訪問しています。訪問時には、すべての入居者の検診を行っています。家族の付き添いで外部の精神科に通院している入居者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の一環をして2週間に1回Ns巡回があり、訪問看護を実施している。入居者の日常生活や症状の異常に対して適宜情報交換にて助言・指示・駆けつけ等24時間の体制が整備構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的または日々の観察による異変への気付きにはDr・Nsに連絡し指示を受けて対応している。関係する病院のDrやNs、関係者とは相談や情報交換を図って良好な関係の構築に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化や看取りに関する内容説明は、書面にご家族に説明し同意を頂いている。来訪されるご家族や遠方のため来所出来ないご家族など様々なので、書面以外にも電話にて要望や方針等の情報交換を行っている。また、運営推進委員会にも情報提供してチーム支援で取り組んでいる。(地域とはコロナ禍の為、話しをしていない)	入居時に「重度化した場合における対応の指針」を説明し、同意を得ています。同意を得たうえで文書に署名をもらっています。看取りの段階では、家族に加えて医師、管理者に職員を加えたチームを組んで対応しています。ターミナルケアの研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急車要請時の心構えや行動については、日々の訓練、啓発で体得する必要がある。緊急対応マニュアルは整っているため、職員が少ない夜間帯を中心にしっかりと対応できる体制を取り、これからの実践力強化に努めていく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設だけではなく地域住民の協力・制限は不可欠だと考える。火災や地震などの災害に対する支援要請を行ってきた。(防災機器の設置、点検、施設防災訓練、運営推進会議での施設防災情報表の掲示など)防災活動には妥協無用で更に努めていく。(現在、地域住民との協力体制のみ出来ていない)	非常災害用の飲料水と食料などは3日分備蓄し、リストで管理し3ヶ月に1回チェックしています。夜間想定避難訓練を定期的に行っています。広域避難場所は近隣の小学校ですが、移動が危険な場合は、垂直避難または事業所駐車場へ退避します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が日々の生活支援の中で人格の尊重。プライバシー確保に努めている。この事を忘れることなく更にスキルアップ向上に努め、チームワークに取り組んでいく。	事故の再発防止に利用するため、廊下、共有スペースに加え、家族の同意のもとで居室にカメラを設置し、音声と動画を記録しています。入居者のプライバシーに配慮し、必要時に管理者のみが録画を確認するなどの運用ルールの基、行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の希望や自己決定をして頂く事を最優先としている。職員が毎日、声掛け・雑誌などお話をすることで、本人の思いや希望を引き出すよう心掛けている。また、職員からの一方的な促しはしないようにし、本人の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活をする上での1日の流れは設定している。しかし、入居者の過ごされる習慣、ペース、その時の気分、身体状況などによって左右されるのは当然なので、常に柔軟性を持ち入居者支援・サービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	オシャレや身だしなみで綺麗でありたいと思う事は、年齢、時代、老若男女問わずという考えで取り組んでいる。起床時に洗面、整容、季節感のある衣類の着用や購入、訪問理美容サービスの提供を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	加齢と共に食事摂取量が減少してきた方や、刻みやミキサー食へ変更になった方でも、食べる事は入居者の楽しみという事を職員は心得ている。お誕生日の日には、ホールケーキ、ご本人の食べたい物をなるべく聞き入れ召し上がって頂いている。	献立と食材は外部業者へ委託し、職員が調理をしています。調理師免許を持つ職員もいます。市販のソースを単に使用するのではなく、職員が手製のタルタルソースを作って提供するなどの工夫をして入居者から好評を得ています。	料理は引き続き、職員がひと手間を加えることで、入居者に喜ばれる食事を提供していくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の栄養を考慮して契約指定業者よりメニューを含む食材発注を行っている。入居者と職員が同じテーブルで食事をする事で、摂取量や嚥下などの状態を観察、チェックし必要に応じてNsなどに情報提供し体調管理を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご本人で出来る方、出来ない方を含めて全入居者に声掛けや誘導をして、口腔ケア・義歯洗浄を行っている。また週一回の訪問歯科往診に入居者の口腔状態や義歯調整、相談を行い清潔保持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて、排泄リズム・頻度・状態等の把握に努め支援している。入居者によって排泄能力やパターンが違うので、その方に適合した介護用品を使用し、声掛けや指導、介助支援などの対応及びNsとの連携で行っている。また、羞恥心や自尊心にも配慮している。	入居者の排泄パターンを記録し、羞恥心に配慮した声掛けをすることでトイレへ誘導しています。職員が付き添い、排泄が終わるまでトイレの前で待機をして入居者の安全に気を配っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方にとっては辛く苦しい便秘、便因を理解し、水分摂取の促し、提供・散歩やリク・対話等での運動、また、飲食物への好みの把握と工夫で予防支援に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に午前・午後（日中帯）が入浴タイム設定で提供支援を行っているが、入りたくないと言われる方もおられるので柔軟な対応を心掛けて支援に取り組んでいる。（温泉の湯を使用）当然、羞恥心や安全にも配慮している。	入浴は週2回ですが、その時の入居者の気分に合わせて臨機応変に対応しています。入居者が希望する場合など、温泉気分でリラックスして入浴できるように入浴剤を使用しています。入浴ができない場合は、清拭で対応して清潔を保持しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の睡眠、安眠状態の情報を職員間で共有し、夜間の眠りが浅く安眠が出来ない症状の方には日中の運動・散歩・入浴・寝具交換等の気分転換にも図れるような支援提供に努めている。又、日中での飲食状態や離床時間を長くするように働きかけ、居室の空調などの環境作りにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方の個々に処方されている薬は異なる為に、現物と説明書はしっかりと管理されている。又、職員によるセット・服薬ミスさせない仕組みでダブルチェックで安全管理に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除が大好き、食器拭きが大好き、歌が好き、洗濯物たたみ・ボール投げ、TV、散歩が楽しみ等様々で、その方の楽しみや楽しそうな笑顔を引き出す為、支援に取り組んでいる。1日の生活にメリハリをつけて気分転換が図れるように努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その方の希望やご家族からの要望がある時・ない場合でも出来る限りの外出支援（散歩・外食（2、3名））を行っている。又、地域で開催される行事には、町内会長様や民生委員の皆様のご協力で笹竹取り・地域縁日・敬老会などにも参加させて頂いている。（現在コロナ禍の為中止）	コロナ禍以前は、近隣の回転寿司などに出かけて食事を楽しんでいました。また週に2、3回、事業所周辺の散歩に出かけたり、玄関脇のベンチで日光浴を楽しんだりしていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	GH施設の特性から困難をに伴う支援だが、ご本人にとってお金は重要な想いであると職員は理解して取り組んでいる。日常の金銭管理は、施設にて立替し、翌月口座から引き落としをしている。ソラスト紙幣というものを作り、イベントに使って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その方から希望・要望があれば適宜対応可能な環境を整えている。稀ではあるが、電話を掛けたいといったケースではプライバシー配慮も行っている。（お部屋にて）又、ご家族からの手紙に返信のケースでは、ご本人の要望で便箋・切手の購入・投函提供などの支援にも取り組んでいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の行事に関する飾付けを折り紙など貼り絵で入居者様と職員が一緒に作り上げ掲示して皆で楽しめる教養空間作りに努めている。リビングフロアはもとより、トイレ・浴槽・各テーブルは特に清潔保持、動線での障害物無し、床の滑り無しの提供支援に努め、居心地の良い共用空間作りに取り組んでいる。	共有スペースは、採光がよく、明るい雰囲気です。壁面には入居者が作成したカレンダーや、民生委員が描いた絵画や季節の飾りつけをして、暖かみのある雰囲気になるような工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人でいたい時間帯や誰かと一緒にいたい心情など日々個々に違う。その思いや状態や受容・尊重して会話したり、TVを観たり、思い思いに楽しんで頂ける心地の良い場所作りに工夫を凝らして取り組んでいる。（年1～2回テーブルなどの変更をしている。）		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居された時のレイアウトはなかなか変更に対して困難なケースが多いのが実態で、タンスの中の衣類の入れ方、壁の掲示類（ご家族の写真・好きな絵など）仏壇や可愛がっているぬいぐるみ等、その方の安心できる居室環境作りに努めている。	入居者は、居室に写真や思い出のある品々を持ち込んで、思い思いの飾りつけをして楽しんでいます。職員が毎日清掃を行っています。整理整頓をすることで転倒防止にも繋げ、入居者の安全に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内部の構造上での安全配慮として出来る限りの範囲内でバリアフリー化の改善に努めている。安全・安心を優先に遵法に沿って歩行通路幅の確保や動線域での障害物撤収やフロアのテーブルやソファのレイアウト変更にて車椅子、介助の方をトイレの近くにするなど努めている。		

事業所名	グループホーム ソラスト勝田
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の指針を受けて事業所内の理念を掲げ、前年度の反省を踏まえて地域に根ざした認知度向上の活動をしていく。入居者の状況は重度化（車いす）し、定期的にプチ会議、月1回のユニット会議を行い、全職員で統一したサービスを提供する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内自治会の一員として、運営推進会議に参加して頂いている町内会長、民生委員の方々から情報を頂き、入居者様と一緒に参加交流を展開している状況。（地域、施設の行事・夜間パトロール・防災訓練）（現在はコロナ状況の為、交流出来ない）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	会社の運営方針を受けて地域貢献の企画運営を変わらず行う予定でいる。（本来であれば、8月の納涼祭）（現在はコロナ状況の為）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、堅苦しくやって終わるのではなく、雑談も入れ、入居者様のお手伝い姿も見て頂く場としている。（現在もコロナ状況の為、書面での会議になっている）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活受給者が6割程で区など行政機関と密な関係を構築することは重要と考えて展開している。市区主催の講習などには、可能な限り参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員の理解度を把握した上で、「拘束するとはどんな事か？」を事例を基に入居者様の安全・快適なケアに努めている。身体拘束の社内研修も実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	[虐待は犯罪]という事を職員に発信している。拘束同様に介護サービス提供者として、言動への助言だけではなくOJTの一環でスキルアップに努めている。職員の心理的ストレスに対しては対話し、思いを聞き入れ、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人の方が1名いるので、区担当者など行政の方からの情報提供並びに後見人との来訪時の会談・メールなどを通じて学ぶ機会を得られている。この分野は管理者だけではなく、エリアディレクター・施設職員・行政の三位一体で理解し、支援できる環境、体制作りに努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年1名入居され、本社・施設の受け入れ態勢や設備が構築されているので、今後も変わらない健全なる方針・スタンスで運営展開していく。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者並びにご家族等からご意見、不満等の声には記録に残して速やかに職員に伝え、周知対応にて早期解決、改善に取り組んでいる。また運営推進会議を利用し情報提供を行い助言をもらっている。ご家族に対しては、来客時、電話での運営に反映を図っている。(コロナ禍の為、状況に応じて)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	元々リーダーからという立場だったためか、職員から意見が言いやすい環境作り・雰囲気作りが出来ている。内容によっては本社へ働きかけ、提言としている。また、必要に応じて職員1人ひとりと対話の機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社（地域担当ディレクター）が適宜来訪して、管理者との情報交換や現場職員との対話で現状把握を図っている。管理者はリーダーと職員の評価を行い、必要に応じて面接を実施し、職員の現状把握とモチベーションアップに努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、本社研修（必須）・社内研修（必須）外部研修・講座はスキルアップの一環で積極的に参加をしている。（コロナ禍の為、状況に応じて）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム協議会主催の研修情報などから、同業他社や他事業所での交流・助言等施設全体の底上げ・個人のスキル・レベル向上を狙った活動をしている。（コロナ禍の為、交流等は出来ていない状況）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人が入居される前には、ご家族も含めサマリー等でのアセスメントを実施している。入居者が安心・安全で居心地の良い生活ができるように日々、環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	離れて暮らすご家族の不安心理は格別なものであると思っている。その思いを少しでもキャッチして、暮らしぶりや健康面の情報などを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談の段階では、入居を前提でお話するのではなく、ご家族に対して安心感を持って頂けるよう努めている。又、ご家族の方が何かを求めているのか等を見極めて、そのご家族にあったサービスを心掛けていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、生活の中で症状、状態を把握して自立及び支援の姿勢を心掛けている。その方がその方らしく生活していくために、職員間で協力しながら今後も継続して取り組んでいく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人及びご家族とは、電話や来訪時などに情報交換を図っている。このスタンスを保ちながら、更に工夫を重ねて信頼関係を深められるよう取り組んでいる。（コロナ禍の為、来訪は現在も中止している）		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所や人との関係が途切れないように外出の機会を心掛けている。個別支援では、個々にあった支援を提供していきたい。（現在はコロナ禍の為、外出が出来ていない）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	性格の違う方達の共同生活のため、職員が一人一人の特徴をしっかりと捉え生活支援を行っている。時には入居者間のトラブルが発生してしまう事もあるが、早めに職員が対応することで、険悪な雰囲気や入居者が孤立等しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで築き上げてきたご家族の関係を出来るだけ終わらせる事なく、電話や来訪時、外出で交流を保ち・情報交換に努めてきた。今後もこの方法で支援提供に取り組んでいく。（現在もコロナの状況により）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の状態が軽度の方・重度な方がおり、自分の意思を伝えることが出来る方・出来ない方など様々である。職員の働きかけや日常会話の中からその方の思いを引き出すよう心掛けている。そして、キャッチしたものを職員間で共有し、その方に合った生活支援を提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の歩んでこられた生活の足跡や背景などの情報はしっかりと職員はとらえて支援している。入浴や散歩などの日常生活でのコミュニケーションは新たな発見情報の源・宝庫であり支援には有効策の一つとして取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員は、入居者一人一人の症状・言動の変化などに対して、情報の共有に努めて支援している。職員間だけではなく、医療機関、関係分野全てと連携し入居者の安全・安心生活に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の日常生活や心身状態などを把握し、管理者や職員、ケアマネージャーを中心に、ご本人やご家族の意見・要望を取り入れて作成している。定期的にモニタリングをしチーム全体で支援提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者全員、毎日の生活の様子をタブレットにケース記録を残し、発語や症状、いつもと違う言動や様子などを特記項目として残し共有化を図っている。介護記録に残すだけでなく、必要に応じて医療・ご家族にも情報を提供し、入居者が安心できる生活環境作りに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	加齢と共に心身、状態などが変容してきている実態・現実をしっかりと捉えて、関係機関やご家族にも情報提供して柔軟な取り組みを実行に移す体制で努めている。（コロナ禍の為、ご家族には電話対応のみ）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	従来と同様に町内会長及び民生委員、地域包括支援センターや区役所担当者と交信・交流にて資源把握・確保を図っている。音楽療法などのボランティアに来訪して頂き、交流を図ることで入居者の癒し環境作り、豊かな暮らしが少しでも出来るための支援に努めている。（コロナ禍の為、交流は無し）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	Dr・Nsの定期検診をし、（週1回）入居者様の医療的健康管理をDr・Ns・ご家族との連携によって、施設として適切な医療環境を提供出来るような体制で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の一環をして2週間に1回Ns巡回があり、訪問看護を実施している。入居者の日常生活や症状の異常に対して適宜情報交換にて助言・指示・駆けつけ等24時間の体制が整備構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的または日々の観察による異変への気付きにはDr・Nsに連絡し指示を受けて対応している。関係する病院のDrやNs、関係者とは相談や情報交換を図って良好な関係の構築に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化や看取りに関する内容説明は、書面にご家族に説明し同意を頂いている。来訪されるご家族や遠方のため来所出来ないご家族など様々なので、書面以外にも電話にて要望や方針等の情報交換を行っている。また、運営推進委員会にも情報提供してチーム支援で取り組んでいる。(地域とはコロナ禍の為、話しをしていない)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急車要請時の心構えや行動については、日々の訓練、啓発で体得する必要がある。緊急対応マニュアルは整っているため、職員が少ない夜間帯を中心にしっかりと対応できる体制を取り、これからも実践力強化に努めていく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設だけではなく地域住民の協力・制限は不可欠だと考える。火災や地震などの災害に対する支援要請を行ってきた。(防災機器の設置、点検、施設防災訓練、運営推進会議での施設防災情報表の掲示など) 防災活動には妥協無用で更に努めていく。(現在、地域住民との協力体制のみ出来ていない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が日々の生活支援の中で人格の尊重。プライバシー確保に努めている。この事を忘れることなく更にスキルアップ向上に努め、チームワークに取り組んでいく。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の希望や自己決定をして頂く事を最優先としている。職員が毎日、声掛け・雑誌などお話をすることで、本人の思いや希望を引き出すよう心掛けている。また、職員からの一方的な促しはしないようにし、本人の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活をする上での1日の流れは設定している。しかし、入居者の過ごされる習慣、ペース、その時の気分、身体状況などによって左右されるのは当然なので、常に柔軟性を持ち入居者支援・サービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	オシャレや身だしなみで綺麗でありたいと思う事は、年齢、時代、老若男女問わずという考えで取り組んでいる。起床時に洗面、整容、季節感のある衣類の着用や購入、訪問理美容サービスの提供を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	加齢と共に食事摂取量が減少してきた方や、刻みやミキサー食へ変更になった方でも、食べる事は入居者の楽しみという事を職員は心得ている。お誕生日の日には、ホールケーキ、ご本人の食べたい物をなるべく聞き入れ召し上がって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の栄養を考慮して契約指定業者よりメニューを含む食材発注を行っている。入居者と職員が同じテーブルで食事をする事で、摂取量や嚥下などの状態を観察、チェックし必要に応じてNsなどに情報提供し体調管理を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご本人で出来る方、出来ない方を含めて全入居者に声掛けや誘導をして、口腔ケア・義歯洗浄を行っている。また週一回の訪問歯科往診に入居者の口腔状態や義歯調整、相談を行い清潔保持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて、排泄リズム・頻度・状態等の把握に努め支援している。入居者によって排泄能力やパターンが違うので、その方に適合した介護用品を使用し、声掛けや指導、介助支援などの対応及びNsとの連携で行っている。また、羞恥心や自尊心にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方にとっては辛く苦しい便秘、便因を理解し、水分摂取の促し、提供・散歩やク・対話等での運動、また、飲食物への好みの把握と工夫で予防支援に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に午前・午後（日中帯）が入浴タイム設定で提供支援を行っているが、入りたくないと言われる方もおられるので柔軟な対応を心掛けて支援に取り組んでいる。（温泉の湯を使用）当然、羞恥心や安全にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の睡眠、安眠状態の情報を職員間で共有し、夜間の眠りが浅く安眠が出来ない症状の方には日中の運動・散歩・入浴・寝具交換等の気分転換にも図れるような支援提供に努めている。又、日中での飲食状態や離床時間を長くするように働きかけ、居室の空調などの環境作りにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方の個々に処方されている薬は異なる為に、現物と説明書はしっかりと管理されている。又、職員によるセット・服薬ミスさせない仕組みでダブルチェックで安全管理に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除が大好き、食器拭きが大好き、歌が好き、洗濯物たたみ・ボール投げ、TV、散歩が楽しみ等様々で、その方の楽しみや楽しそうな笑顔を引き出す為、支援に取り組んでいる。1日の生活にメリハリをつけて気分転換が図れるように努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その方の希望やご家族からの要望がある時・ない場合でも出来る限りの外出支援（散歩・外食（2、3名））を行っている。又、地域で開催される行事には、町内会長様や民生委員の皆様のご協力で笹竹取り・地域縁日・敬老会などにも参加させて頂いている。（現在コロナ禍の為中止）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	GH施設の特性から困難をに伴う支援だが、ご本人にとってお金は重要な想いであると職員は理解して取り組んでいる。日常の金銭管理は、施設にて立替し、翌月口座から引き落としをしている。ソラスト紙幣というものを作り、イベントに使って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その方から希望・要望があれば適宜対応可能な環境を整えている。稀ではあるが、電話を掛けたいといったケースではプライバシー配慮も行っている。（お部屋にて）又、ご家族からの手紙に返信のケースでは、ご本人の要望で便箋・切手の購入・投函提供などの支援にも取り組んでいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の行事に関する飾付けを折り紙など貼り絵で入居者様と職員と一緒に作り上げ掲示して皆で楽しめる教養空間作りに努めている。リビングフロアはもとより、トイレ・浴槽・各テーブルは特に清潔保持、動線での障害物無し、床の滑り無しの提供支援に努め、居心地の良い共用空間作りに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人でいたい時間帯や誰かと一緒にいたい心情など日々個々に違う。その思いや状態や受容・尊重して会話したり、TVを観たり、思い思いに楽しんで頂ける心地の良い場所作りに工夫を凝らして取り組んでいる。（年1～2回テーブルなどの変更をしている。）		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居された時のレイアウトはなかなか変更に対して困難なケースが多いのが実態で、タンスの中の衣類の入れ方、壁の掲示類（ご家族の写真・好きな絵など）仏壇や可愛がっているぬいぐるみ等、その方の安心できる居室環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内部の構造上での安全配慮として出来る限りの範囲内でバリアフリー化の改善に努めている。安全・安心を優先に遵法に沿って歩行通路幅の確保や動線域での障害物撤収やフロアのテーブルやソファのレイアウト変更にて車椅子、介助の方をトイレの近くにするなど努めている。		

2022年度

事業所名 グループホーム ソラスト勝田
 作成日： 2023 年 3 月 4 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	31 32 33 34	入居者様の状態変化や高齢に伴い、重度化が進む中で看取り介護の方も受け入れしている状況である。Dr、ナースとの連携や介護職員間の統一が不可欠である。(コロナウイルス等も)	入居者様の状態を日々観察し、定期的に対処方法の検討や記録を詳細に残して行く。Dr、ナースとの情報交換を密に行い、連携を図って行く。	入居者様の些細な状態でも、Dr、ナースへ伝え、その都度支持を貰い、職員間で統一し、ケアを対応して行く。(職員全員でのライン活用) (これからもコロナウイルスを持ち込まない)	1 2 ヶ月
2	10	現在コロナ禍でもあるが、ご家族に対して要望意見を聞く機会を設けている。	介護や看護などの情報をお定期的にご家族に発信し、ご家族との関係を密にして行きたい。	電話での対応や御本人様の様子を伝える事や写真や動画(QRコード)を送るなど、ご家族の要望や意見を聞けるように心掛ける。(コロナの状況だが、その時の状況により面会を設ける)	1 2 ヶ月
3	13 14 26 36	職員のスキルアップの向上	介護技術、温かい心、ホスピタリティマインドを目指して行きたい。	職員全員が研修等に出来る限り参加し、(状況により)参加出来ない職員には、施設内研修を開き、向上、統一してケアを行って行く。(外部研修や会社内のソラスクール研修(動画))	1 2 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月